

結果概要 [調査結果の概要①]

日常の災害に関する情報収集先

- ・日常の災害に関する情報収集先は、圧倒的に「テレビ」が多く、性別・年代別・居住地域別・職業別により変わりなく最も利用されている。次いで「新聞」「ラジオ」の順となり従来型のメディアの利用が多数を占めている。
- ・Blog・Twitterによる情報収集は20代が**42.1%**で全年代中でも突出して高く年代が上がるほど低くなる傾向にある。
- ・女性は「家族・親戚」から情報を得るとしている者が**40.6%**を占めており、この値は男性の倍以上に達する。

災害時に多く利用するインターネット上の地図

- ・「googleやyahooなどの大手検索サイトが提供する地図」が**76.4%**と最も多く、これらの地図が日常だけでなく災害時にも利用が一般化していることが伺える。
これは普段から利用し、見慣れている、使い慣れている、親しんでいる地図が、災害時の利用でも優先されているものと考えられる。

国土地理院が提供する主題図の認知度・満足度

- ・国土地理院の主題図を「知っていて、利用したことがある」(3.8%)と「知っているが、利用したことはない」(14.2%)を合計しても2割に満たないのに対して「知らなかった」は**80.4%**と主題図に関する一般国民の認知度は低い。
- ・利用したことがある主題図では、「都市圏活断層図」(69.4%)「土地条件図」(63.9%)「地盤高図」(55.6%)の順で続くが、最も多い「都市圏活断層図」でも利用人数は回答者945人中の**25人**に過ぎない。
- ・主題図を利用したことがある者の満足度(「十分満足している」と「やや満足している」の合計)は「都市圏活断層図」(**56.8%**)「土地条件図」(**60.5%**)「地盤高図」(**58.3%**)となっており、利用者からは一定の満足が得られている。

国土地理院が提供する主題図に対する感想・要望

- ・国土地理院の主題図が「あまり役に立たないと思う」「全く役に立たないと思う」理由としては、「図の見方が分かりにくい」(21.6%)「表現が複雑で分かりにくい」(20.6%)の順となっている。
- ・特に女性にこの傾向が強く、職業別でも主婦が「図の見方が分かりにくい」(**50.0%**)「表現が複雑で分かりにくい」(**42.9%**)と、いずれも平均値を大きく上回っている。
- ・主題図の提供媒体では、「両方を同じように提供するのがよい」(**74.9%**)が他の選択肢を圧倒しており、紙媒体の重要性がデジタルと同等の評価を得ている。

結果概要 [調査結果の概要②]

国土地理院が提供する基本図の認知度と利用目的

- ・国土地理院の基本図を「利用したことがある」(26.5%)に対して「利用したことがない」(72.9%)となっており、主題図と同様に基本図も国民一般には十分認知されていない実態が明らかになった。
- ・利用したことがある者の利用目的では「行楽や登山・ハイキングなど『観光目的』」(38.9%)「学校での教育など『学習・指導目的』」(22.5%)が上位を占めており、『防災目的』や『学術・研究目的』での利用は10%台に止まっている。
- ・利用したことがある基本図では、「主に紙地図を利用している」(69.3%)が「主に数値地図を利用している」(16.5%)に比較して圧倒的に多く、紙媒体の需要が未だ大きいことが明らかになった。

国土地理院が提供する基本図への要望と感想

- ・国土地理院の基本図に対する要望・感想では「見やすさ分かりやすさの改善」に属する回答が全回答数207件中55件で最も多かったが、次いで「現状で満足している」(35件)という回答が多く寄せられた。
- ・改善のための要望としては、「色弱者に配慮してほしい」「もっと短い周期で更新してほしい」といった意見や「もっと積極的にPRすることが重要」という意見が寄せられた。
- ・国土地理院の基本図を利用したことがない理由では、「googleやyahooなど大手検索会社の提供する地図の方が使いやすい」(41.8%)で最も多く、次いで「国土地理院が基本図を整備していることを知らなかった」(31.8%)であった。

今後の地図整備・更新で特に重視するもの

- ・国土地理院の今後の地図整備・更新で重視すべきものとしては「防災に役立つ地図や情報に特化して整備・更新する」(61.0%)で最も多く、次いで「全国の地形の変化(埋め立て等)や地物(道路・建物等)の変化に関する情報をできるだけ素早く更新する」(50.3%)「人口過疎地域も含めて、全国をくまなく同一基準(縮尺、精度など)の地図で整備・更新する」(47.6%)の順となっていることから、民間企業や団体では対応が難しい分野での地図整備・更新が国土地理院に期待されていると思料される。

標高に関する地図情報の認知度と主な利用実態

- ・国土地理院が提供する標高に関する地図情報(標高がわかるweb地図、デジタル標高地形図)については、いずれの地図に対しても「知らなかったが、今後利用したい」が60%超に達している一方、「見たことがある」が10%に満たないことから、十分な周知が行われれば利用は大きく進むものと思われる。
- ・「見たことがあるが、今後利用しない」「知らなかったし、今後も利用しない」者の内、29.2%が「特に必要な情報だとは思わない」と回答しているところからも、今後、活用方法の例示や案内・広報活動の必要がある。

結果概要 [調査結果の概要②]

三角点・水準点の認知度と利用実態

- ・三角点や水準点を土地の測量の基準としなければならないことを「知っている」(36.9%)と「聞いたことはある」(26.7%)の合計は60%を超えている。
- ・三角点、水準点をどのように利用したことがありますか。あるいは今後利用してみたいと思われませんか。という設問では、「特に利用してみたいと思わない」(38.4%)が最も多かった。
- ・「その他」の回答では、①利用方法が分からない②個人で利用する機会がない③利用するメリットが不明という類の意見が多かった。

電子基準点の役割に対する理解と認知度

- ・国土地理院が電子基準点を使って、全国の地殻の変動を監視していることを「知っている」(20.3%)に対して「知らなかった」(78.3%)であり、一般的には電子基準点の認知度は、三角点や基準点に大きく劣る。
- ・国土地理院が「電子基準点」を利用して、東日本大震災の際に大きな地盤沈下や地殻の変動が引き起こされたことを観測し、その情報を記者発表などで公表したことについて、国土地理院が公表したことまで含めて知っていた者は「情報も、国土地理院が公表したことも知っている」(18.9%)に過ぎない。

国土地理院や地図・測量全般に対する意見・要望

- ・国土地理院の役割や業務の重要性に対する叱咤激励(355件)が最も多く、次いで国土地理院の広報や情報提供(175件)、防災・災害対応に対するご意見(51件)が上位を占めた。(全667件)

総括

- ・災害の情報収集に一番利用されているのは、圧倒的に「テレビ」であり、性別、年代、居住地域、職業別を問わない。ホームページやblog、twitterによる情報収集は若年層を中心とした一部に止まる。
- ・災害時にインターネット上で最も多く利用されている地図は、大手検索会社が提供する地図であり、日常的に使い慣れているものを災害時の情報収集にも利用しているものと思われる。
- ・国土地理院が提供する地理空間情報は主題図・基本図を問わず広く周知されていないが、利用したことがある者からは、一定の評価を得ている。
- ・国土地理院に寄せられた意見では、「分かり易い提供」と「やっていることを知らせてほしい」等、より積極的な広報活動を望む声が多い。